

■605会場 口頭発表

	氏名	演題
S1	奥田 徳子 (薬科)	医療制度の国際比較～人口減少社会で持続可能な日本の医療を考える～
S2	藤井重子 (歯科)	高齢化率40パーセントの地域での多職種連携～歯科衛生士の取り組み～
S3	丸岡三紗 (歯科)	過疎地域における高齢者の「食べる楽しみ」を支える～異業種連携で取り組む地域包括ケア～
S4	上村伯人 (医科)	医者が足りなくても地域で看取りたい！～魚沼在住看取り(支援)隊の取り組み～
S5	高橋泰樹 (歯科)	市井の歯科診療所における患者さんとの繋がり
S6	吉川浩郎 (歯科)	多職種からの情報を得ながら関わった要介護高齢者夫妻の一事例
S7	曾 嶋 隆 (歯科)	2015年茨城県常総市で発生した水害への歯科的対応と問題点 災害発生時に歯科界に求められること、日常の備え等について

■602会場 口頭発表

	氏名	演題
Y1	所 智洋 (薬科)	表題市民の意識調査から見る都市部の在宅医療・緩和ケア～みなと区民まつりでの「緩和ケア」「在宅医療」意識調査結果報告～
Y2	池田里江子 (薬科)	同行訪問(OJT)による在宅訪問薬剤師の育成
Y3	藤田珠理 (薬科)	認知症の人にやさしいまち 西東京市をめざして
Y4	田内よし子 (薬科)	在宅でとりまく近況と今後について～症例を踏まえて～
Y5	上野 将明 (薬科)	薬剤師が多職種連携研修会において求められるものは何か?
Y6	高橋俊輔 (薬科)	在宅患者の薬物治療に、より主体的にかかわるための在宅訪問のタイミング
Y7	鈴木秀香 (薬科)	当薬局における無菌調剤の実績
Y8	小林 輝信 (薬科)	ICTを活用した訪問薬剤業務の効率化と多職種情報連携

■ポスター発表

	氏名	演題
1	原崎大作	日めくり服薬カレンダーのリマインダー効用
2	藤田珠理	在宅から地域へ 西東京市薬剤師会における取り組み報告
3	宇都宮 励子	薬剤師在宅訪問業務の質を向上させる要因の検討
4	園部亮仁	在宅患者の抱える薬物治療に関する問題解決に向けたFFS理論を活用したコミュニケーションの実践
5	谷口栄	薬学生の在宅医療に対する意識調査
6	鎌田貴志	真に在宅医療を必要としている患者は薬剤師からアプローチを
7	松本朋子	新規開局薬局での在宅医療の第一歩
8	大森真樹	顔の見える多職種連携 ケアカフェくまもとを開催して
9	天方奉子	介護付き有料老人ホームにおける緑内障治療点眼薬の使用に関する実態調査
10	貴田崇史	グループホームにおける他職種との連携
11	星野 真	回復期病棟入院中から訪問で摂食嚥下治療介入を始め退院後も居宅で継続して介入を行い経口摂取可能となった1症例
12	山田 晃弘	超高齢社会を支える薬局・薬剤師のかかりつけ機能とは
13	大塚理加	自治体と地域の薬剤師の連携による薬剤管理の促進について
14	佐々木 健	将来の「かかりつけ医療」を支える学生の教育
15	橋本 登	地域薬局の処方減薬の取り組みと減薬実績
16	湯川仁	無菌調剤の実績(2) クリーンベンチを設置して1年半の振り返り
17	中西裕道	在宅末期がん患者の疼痛管理における当薬局の夜間・休日対応の役割
18	深町伸子	在宅療養患者の摂食及び栄養に及ぼす薬剤の影響について-1年後の死亡転帰と薬剤使用の関連について-
19	仲地 剛	健康サポート薬局申請から得た知見 保健所薬剤師の業務を在宅療養支援にどう活かすか
20	塚本篤史	薬局提案型の訪問薬剤管理指導に必要な要因と阻害要因の分析
21	坂本 岳志	保険薬局による持続注入ポンプのレンタル実績
22	上野 将明	調剤薬局における無菌調剤の現状と今後の展望について
23	小林星太	終末期がん患者の退院支援における薬局薬剤師の取り組み～医療用麻薬注射剤投与患者への関わり～
24	橋本 登	スタチン減薬の取り組みとその数値変化
25	岡本 祐美	薬による有害事象の発生防止に対する薬剤師の役割について
26	高 裕之	薬剤糖質量におけるメーカー情報開示の違いについて
27	堀籠淳之	誤薬ゼロを目指す施設服薬管理の取り組み 汎用お薬カレンダーの活用法
28	田村 泰大	暮らしに紛れ込む違法薬物類と薬剤師の役割
29	平沢賢人	発達障害を持つ人々が暮らしやすい社会とは